



Season 2026-27 subscription series *Booklet*

# TOKYO PHILHARMONIC



*chie 17.*

Feb. 2026



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます  
ここ東京で華やかに色づくオーケストラの調べを  
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

---

オフィシャル・サプライヤー

---

**SONY** **Rakuten Mobile** **MARUHAN** **LOTTE** **JP BANK** ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第1028回サントリー定期シリーズ  
2月18日(水) 19:00開演 サントリーホール

第1029回オーチャード定期演奏会  
2月23日(月・祝) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

指揮：チョン・ミョンフン

ヴァイオリン：岡本誠司\*

コンサートマスター：近藤 薫

2/18

2/23

ウェーバー：

歌劇『魔弾の射手』Op. 77 より序曲(約10分)

〈ウェーバー没後200年〉

ブルッフ：

ヴァイオリン協奏曲第1番 ㄟ短調 Op. 26\* (約25分)

- I. 前奏曲：アレグロ・モデラート
- II. アダージョ
- III. フィナーレ：アレグロ・エネルジーコ

－ 休憩(約15分) －

メンデルスゾーン：

交響曲第3番 ㄟ短調 Op. 56『スコットランド』(約40分)

- I. アンダンテ・コン・モートー アレグロ・ウン・ポコ・アジタート
- II. ヴィヴァーチェ・ノン・トロppo
- III. アダージョ
- IV. アレグロ・ヴィヴァーチッシモー アレグロ・マエストーン・アッサイ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))  
独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura(2/23)



- ♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。
- ♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフのご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。
- ♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。
- ♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。
- ♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。終演後のカーテンコールも、マナーを守ってお楽しみください。

## 出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 名誉音楽監督

チョン・ミョンフンは長年にわたり国際的に音楽界を牽引してきた指揮者であり、その卓越したキャリアは、2027年よりミラノ・スカラ座音楽監督に指名を受け就任するという近年の発表によって、さらに大きな節目を迎えている。

韓国ソウル生まれ。1974年チャイコフスキー国際コンクールピアノ部門第2位。その後ロサンゼルス・フィルでジュリーニのアシスタント、のちに

副指揮者。ベルリン・フィル、ウィーン・フィルほか世界の主要オーケストラのほとんどすべてを指揮している。ザールブリュッケン放送響音楽監督／首席指揮者(1984～1989)、パリオペラ座バステュー音楽監督(1989～1994)、ローマ・サンタチェチーリア管首席指揮者(1997～2005)、フランス国立放送フィル音楽監督(2000～2015)。現在は名誉音楽監督)、ソウル・フィル音楽監督(2006～2015)、シュターツカペレ・ドレスデン首席客演指揮者(2012～)、スカラ・フィル初の名誉指揮者(2023～)、クラシック・ブサン(釜山コンサートホールおよび同歌劇場)芸術監督(2023～)、KBS交響楽団音楽監督(2026～)等主要ポストを歴任。2027年よりミラノ・スカラ座音楽監督。1997年に本人が創設したアジア・フィルの音楽監督も務める。

フランス政府よりレジオンドヌール勲章コマンドゥール章、イタリア共和国星勲章コメンダトーレ章、ヴェネツィア・フェニーチェ劇場での優れた指揮活動に対するプレミオ・アッピアーティ賞、韓国政府による最高位の文化勲章「金冠文化勲章」など受章多数。2022年イタリア共和国功績勲章であるグランドオフィサーの称号を受勲。

東京フィルでは2001年にスペシャル・アーティスティック・アドバイザーに就任、2010年より桂冠名譽指揮者、2016年9月名誉音楽監督に就任。四半世紀に及ぶ関係の中で数多くの海外公演も行い、2025年秋にはヨーロッパ・ツアーを画期的な大成功へ導いた。ピアニストとして室内楽公演に出演するほか、アジアの若い演奏家への支援、ユニセフ親善大使、アジアの平和を願う活動など多岐にわたり活躍している。



©Yuji Ueno

ヴァイオリン

**岡本誠司**

Seiji Okamoto, violin

第19回J.S.バッハ国際コンクールのヴァイオリン部門にてアジア人で初めて優勝。ヴェニツァフスキ国際コンクール第2位、2019年エリザベート王妃国際音楽コンクールでのファイナリスト、2021年にはARDミュンヘン国際音楽コンクールヴァイオリン部門第1位入賞など受賞歴多数の実力派。現在はドイツを拠点に、コンチェルト・ソリストや室内楽など精力的な演奏活動を行いつつ、ハンス・アイスラー音楽大学では後進の指導にも当たっている。反田恭平プロデュースJapan National Orchestraではコンサートマスターを務めている。これまでに、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、MDRライブツィヒ放送交響楽団、ウィーン室内管弦楽団、ベルギー国立管弦楽団、サンクトペテルブルグ交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団など、国内外のオーケストラとの共演多数。2022年文化庁長官より表彰。第31回出光音楽賞を受賞。

ヴァイオリンはNPO法人イエロー・エンジェルよりM.ゴフリラー（1702年製）の貸与を、日本ヴァイオリンソサエティよりF.ガリアーノ（1777年製）の貸与を受けている。CD『frei aber einsam ～自由だが孤独に～』をNOVA Recordよりリリース。

公式サイト <https://sejiokamoto.net/>

## 楽 曲 紹 介

解説＝野本由紀夫

### 今月の定期演奏会について

今日は、昨年10月の定期演奏会以来4か月ぶりに名誉音楽監督チョン・ミョンフンの登場である。ご存じのように、前回の登板はピアニストの小曾根真との協演であり、まさに同じ組み合わせ、同じプログラムを引っ提げて、東京フィルは同月からヨーロッパツアーへと出立し、大成功を収めた。(https://note.com/tokyopo1911/n/n422e10a174b9)

ブルッフのヴァイオリン協奏曲を独奏する岡本誠司は、2021年にドイツのARDミュンヘン国際コンクールで第1位に輝いた俊英で、美しいメロディにあふれるこの協奏曲をどう聴かせてくれるか、楽しみだ。

メインプログラムのメンデルスゾーン『スコットランド』は、後述するように、終楽章の終結部をどのように扱うかで、指揮者によって作品の印象や造形美が大きく変わってくる。マエストロの演奏解釈が心待ちである。

### ウェーバー 歌劇『魔弾の射手』序曲

今年、没後200年を迎えたカール・マリア・フォン・ウェーバー(1786-1826)の代表作、歌劇『魔弾の射手』(1821)の序曲である。この歌劇は、イタリア・オペラ全盛の時代にドイツ国民オペラを確立した金字塔といわれる。

ドイツの民話を題材にしたオペラで、17世紀のボヘミアが舞台。悪魔と契約した7発の弾丸は、6発は射手の意のままに、最後の7発目は悪魔の思い通りに命中する。

序曲は、ホルン四重奏で始まる。ホルンそのものが狩りの楽器である上に、このメロディは賛美歌『主よ、御手もて引かせ給え』であり、舞台となるボヘミアの森の神秘を表している。それに引き続いて弦楽器のトレモロで不穏な空気になると、悪魔ザミエルが魔弾を鑄造する狼谷の光景となる。

主部に入ると、弦楽器のシンコーションの伴奏に乗って、クラリネットが若い獵師マックスの不安を表現する。明日は射撃大会で、ここで優勝しなければ、恋人アゲーテと結婚できない。クラリネット協奏曲で有名なウェーバーらしく、クラリネットの

輝かしいソロが鳴り響いた後、弦楽器の弱音でアガーテの愛のメロディが奏でられる。

マックスが放った7発目の弾はアガーテのほうに飛ぶが、彼女は白いバラの冠で守られ、悪魔に魂を売っていたカスパールに命中する。序曲の最後は壮大な長調となるが、アガーテの愛のメロディが力強く演奏され、贖罪と結婚を認める領主の寛大な処置への喜びと、神への賛歌となって閉じられる。

[作曲年代] 1821年 [初演] 1821年6月18日、ベルリンの王立劇場にて、作曲家自身の指揮による

[楽器編成] フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽5部

## ブルッフ ヴァイオリン協奏曲第1番 短調 Op. 26

ドイツの作曲家・指揮者、マックス・ブルッフ(1838-1920)が28歳の1866年に完成した最初のヴァイオリン協奏曲。初演は大成功だったが、さらに2年弱をかけて大改訂を進めた。そのとき助言を求めたヨーゼフ・ヨアヒムをはじめ、ダヴィッド、アウアー、ヴェータン、サラサーテなど、そうそうたる大ヴァイオリニストたちのお気に入りレパートリーとなったこともあり、今日まで人気が続くヴァイオリン協奏曲のひとつである。

**第1楽章** 「前奏曲」と題された楽章。明らかに「第2楽章への前奏曲」という意味である。冒頭から独奏ヴァイオリンの短いカデンツァ風のパッセージで始まる。ソナタ形式で書かれているが、提示部・展開部・再現部の目印は、メロディよりも低弦の伴奏リズム「タン・タタン・タタン」でお気づきいただけるだろう(ただし、再現部は大幅に短縮されている)。冒頭部分の再現としての短めのカデンツァのあと、トゥッティ(全員合奏)を経て、音楽はいっさい途切れることなく第2楽章へと続いていく。

**第2楽章** アダージョの緩徐楽章。ブルッフならではの旋律美の音楽である。深い情感が魅力的だ。ほぼほぼ独奏ヴァイオリンが音楽を引っ張っていく。中間部の激しい感情の高ぶりを含めて、きわめてロマンチックな楽章である。

**第3楽章** エネルギッシュな終楽章。前の楽章が変ホ長調で静かに終わるのをそのまま引き継いで、変ホ長調の最弱音のトレモロ(ヴィオラの刻み)で始まる。短調で陰鬱に始まったこの協奏曲は、終楽章で主部が長調になって、屈託の

ない快活な音楽となる。独奏ヴァイオリンは重音奏法（複数の弦を同時に押さえて、和音のように弾くこと）が多用されている。最後はテンポアップし、盛り上がって終わる。

[作曲年代] 1864～66年。初演後、1868年の年頭まで継続的に改訂 [初演] 1866年4月24日、コーブレンツにおいてオットー・フォン・ケーニヒスロウの独奏、作曲者自身の指揮による（初稿）。現在の形での初演は、1868年1月5日もしくは7日、プレーメンにおいてヨーゼフ・ヨアヒムの独奏、カール・マルティン・ラインターラーの指揮による

[楽器編成] フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部、独奏ヴァイオリン

## メンデルスゾーン

### 交響曲第3番 イ短調 Op. 56 『スコットランド』

フェリックス・メンデルスゾーン（1809-1847）が20歳の1829年にスコットランド旅行で着想を得、13年の歳月をかけて1842年にいったん完成し、翌年、改訂された交響曲。出版された順番から「第3番」と表記されているが、実際には完成した4曲の交響曲のうち、最後の作品である。完成年代順でいうと、交響曲第1番（1824）→ 第5番「宗教改革（通称）」（1830）→ 第4番「イタリア（通称）」（1833）→ 第3番「スコットランド（通称）」（1842/43）となる。

ちなみに、メンデルスゾーン生誕200年の2009年に出版された新しい『メンデルスゾーン作品目録』では、第2番は欠番扱いである。かつて第2番「賛歌」と呼ばれてきた作品（1840）は、「大編成の宗教曲」（つまりカンタータ扱い）に分類変更となった。

#### ●1829年のメンデルスゾーン

メンデルスゾーンは、1829年7月30日、スコットランドのエディンバラにあるホーリールド宮殿にある礼拝堂を訪れた。家族あての手紙にこうある。

「深い黄昏のなか、私たちは今日、メアリー女王が愛し、住んでいた宮殿に行ってきました。…すべてが廃墟と化し、朽ち果てたなかに、澄んだ空が流れ込んでいます。私はそこに『スコットランド交響曲』の始まりを見つけました」。

栄華盛衰と諸行無常の響きを感じさせるこの風景から、メンデルスゾーンは16小節の楽譜をメモした。それがほぼそっくりそのまま、完成した『スコットランド交響曲』の冒頭部となった（11ページの**譜例1**、星野宏美ほかの研究による）。この冒

頭部は、交響曲全体の音楽的・心情的「核」ともいえ、どの楽章にも変化した形で姿を現す。

じつはこの年、彼にとって、というより音楽史や世界史にとって、きわめて重大な出来事があった。「バッハ復活」である。同年3月11日の水曜日、弱冠20歳のメンデルスゾーンはベルリンにおいて同ジングアカデミー（アマチュア合唱協会）を指揮し、バッハ（1685-1750）の『マタイ受難曲』を「100年ぶり」（当時のポスターによる）に復活演奏した。

今日では信じがたいことだが、バッハは没後、急速にその作品が忘れ去られていった。それを復活させた一番インパクトのあった歴史的「事件」が、メンデルスゾーンによる蘇演だった。しかもこの日の演奏が、メンデルスゾーンの「指揮者デビュー」でもあった。

こうした偉業の年、彼は4月から友人と二人でイギリス旅行へと出立した。これは、一種の「教養旅行」かつ「就活ツアー」の一環であり、最終的に1832年6月まで続いた。その間に、滞在先でインスピレーションを得て、交響曲『スコットランド』や『フィンガルの洞窟』、交響曲『イタリア』が生まれることになった。

### ●なぜスコットランドへ？

なぜまずスコットランドへ行ったかという点、当時、ヨーロッパでは「スコットランド・ブーム」が起きていたからである。かのゲーテ（1749-1832）でさえ、『若きヴェルテルの悩み』（1774）の終幕にスコットランド古歌を引用したほどだ。1810年代になると、スコットランドの国民的英雄、ウォルター・スコット（1771-1832）の歴史小説が大ヒット。少し後の時代になるが、ドニゼッティの歌劇『ランメルモールのルチア』（1835）の原作者も、スコットであった。

### ●聴きどころ？ 演奏解釈の難所？

交響曲『スコットランド』は、冒頭部の音楽によって全楽章が統一されているうえに、最初の3つの楽章が終止線で閉じられておらず、「アツカ（すぐに続けて）」と指示されている。つまり4つの楽章で1つの交響曲だということが、強く意識されていよう。

そのなかにあって、第4楽章の「終結部」はしばしば問題視されてきた。なぜなら、そこに至るまでの陰鬱な空気とはまるで雰囲気が異なる上に、不釣り合いな

ほど長大だからだ。少々乱暴なやり方だが、指揮者オットー・クレンペラー（1885-1973）のように、まるまる終結部をカットして独自の補筆を行った録音さえある。

そのため、この終結部をどのように演奏したらよいのか、指揮者は非常に悩むところなのだ。この部分の扱い方いかんでは、交響曲全体の印象が大きく変わってしまう。はたしてチョン・ミョンフンはどのような演奏を聴かせてくれるのか、乞うご期待。

**第1楽章** 序奏付きのソナタ形式の楽章。すでに述べたように、この序奏部の冒頭16小節間は、メンデルスゾーンが1829年に書き留めた楽譜メモとほぼ完全に一致する（**譜例1**参照）。メランコリックで荒寥感をたたえた、内面的なメロディである。

主部の第1主題は、この序奏主題を変形したもの（**譜例2**）。その後、切迫したテンポのトゥッティ（全員合奏）の推移部を経て、ふたたび静まった第2主題はクラリネットによる愛らしいメロディである。そのときの伴奏音型は第1主題の変形だ。

展開部も静かに始まるが、やがて「嵐のシーン」と呼ばれる、波がうねるような音楽となる。再現部を経て、最後は穏やかに終わっていく。

**第2楽章** 軽快なスケルツォ楽章。ソナタ形式とロンド形式を融合したような楽章で、A-B（提示部）-A-C（展開部）-A-B（再現部）-A（終結部）という形になっている。短い前奏に続いて、クラリネットがスコットランドの民族楽器、バグパイプにありそうなメロディ（A）を奏する。付点リズムが続くのも、スコットランド民謡風だ。もう一つの主題（B）は、弦楽器で静かに奏される下行音階のメロディ。展開部はAとBが絡まり合いながら進む。最後はいたずらっぽく余韻を残して静かに終わる。

**第3楽章** 美しいアダージョ楽章。短い序奏のあと、主題が2つ出てくる。一つ目は、弦楽器主体のイ長調の主題で、情感豊かに歌われる。2つ目は管楽器主体のイ短調の主題で、付点リズムが特徴の葬送行進曲風である。この2つのメロディが交互に登場しながら音楽は進んでいく。

**第4楽章** ソナタ形式に巨大な終結部が付いた、イ短調の楽章。メンデルスゾーンは初版スコアのコメントに「アレグロ・ゲリエーロ」と書き記しているが、これは「戦闘的なアレグロ（快速なテンポ）」という意味だ。まさに第1主題は、隊列の乱れのない四分音符の連打による規則正しい伴奏の上に、付点リズムを伴った下行音階でできている。第2主題は、第1ヴァイオリンの口音の刻みが続く上で、オーボエとクラリネットが跳躍含みの音形を奏する。

曲はいったん収束の方向に向かうが、突然イ長調の雄大な終結部が始まる。このメロディもじつは第1楽章冒頭のメランコリックなメロディを変形したもの(譜例3)。すでに述べたように、演奏解釈上のききどころである。曲は堂々と締めくくられる。

【作曲年代】1829年7月30日～1842年1月20日初稿完成。その後、1843年3月の初版出版までに改訂を繰り返す。【初演】1842年3月3日、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の定期演奏会において、作曲家自身の指揮で初稿初演。【初版】1843年3月。イギリスのヴィクトリア女王に献呈

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部

● 譜例1

Musical score for Example 1, showing a melodic line in 3/4 time. The notes are Mi (ミ), Ra (ラ), Shi (シ), Do (ド), and Shi (シ). Dynamics include *p*, *sf*, and *p*.

● 譜例2

Musical score for Example 2, marked *Allegro un poco agitato* with a tempo of  $\text{♩} = 100$ . The notes are Mi (ミ), Ra (ラ), Shi (シ), and Do (ド). Dynamics include *pp* and *mf*.

● 譜例3

Musical score for Example 3, showing a bass line in 6/8 time. The notes are Mi (ミ), Ra (ラ), Shi (シ), Do# (ド#), and Shi (シ). Dynamics include *mf* and *sf*.

のもと・ゆきお／玉川大学芸術学部元教授。NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」レギュラー解説者。放送100年(2025)を記念した「第九ラジオ」に出演、音楽監修。NHKテレビ「ららら♪クラシック」、「チコちゃんに叱られる」、NHK-BS「フジコ・ヘミング」追悼番組ほか、音楽番組に多数出演。NHK「クラシックTV」音楽史監修、1万2000人収容の横浜アリーナで第九を指揮するなど、音楽史研究と演奏の両立を目指して活動してきた。音楽之友社より毎月の連載に大幅加筆した『鑑賞「誤解」講座』を近日刊行予定。

The 1028th Suntory Subscription Concert  
**Wed. Feb. 18, 2026, 19:00 at Suntory Hall**

The 1029th Orchard Hall Subscription Concert  
**Mon./Holiday Feb. 23, 2026, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall**

Myung-Whun Chung, conductor

Seiji Okamoto, violin\*

Kaoru Kondo, concertmaster

Weber:

Overture to the opera "Der Freischütz", Op. 77 (ca. 10 min)

〈The 200th anniversary of Weber's death〉

Bruch:

Violin Concerto No. 1 in G minor, Op. 26\* (ca. 25 min)

- I. Prelude: Allegro moderato
- II. Adagio
- III. Finale: Allegro energico

— intermission (ca. 15 min) —

Mendelssohn:

Symphony No. 3 in A minor, Op. 56 "Scottish" (ca. 40 min)

- I. Andante con moto - Allegro un poco agitato -
- II. Vivace non troppo -
- III. Adagio -
- IV. Allegro vivacissimo - Allegro maestoso assai  
 (all movements played without pause)

Presented by Tokyo Philharmonic  
 Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |  
 Japan Arts Council  
 In Association with **Bunkamura** (Feb. 23)



- ♪ All seats are reserved. Late admittance will be refused during the live performance. If you enter or reenter just before the concert or between movements, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- ♪ Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- ♪ Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- ♪ Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

## Artists Profile



©Takafumi Ueno

### Myung-Whun Chung, conductor

Honorary Music Director of the Tokyo Philharmonic

Born in Seoul, Myung-Whun Chung won the silver medal at the Tchaikovsky International Piano Competition in 1974. After completing conducting studies at the Juilliard School, he served as assistant and subsequently associate conductor to Carlo Maria Giulini at the Los Angeles Philharmonic.

Since his appointment as Music Director of the Paris Opera (L'Opéra Bastille) in 1989, Maestro Chung has conducted many prominent orchestras including the Vienna Philharmonic, the Berlin Philharmonic, and la Filarmonica della Scala. He has served as the Music Director of l'Orchestre Philharmonique de Radio France (2000-2015), the Seoul Philharmonic Orchestra (2006-2015), and the Asia Philharmonic Orchestra, which he founded in 1997. Since 2012, he has been Principal Guest Conductor of the Staatskapelle Dresden. He has served as Artistic Director of Classic Busan since 2023, and as Music Director of the KBS Symphony Orchestra since 2026.

In June 2022, he received the title of Grand Officer of the Order of Merit of the Republic of Italy for his contributions to Italian cultural development over the years. In March 2023, he became the first-ever Conductor Emeritus of the Filarmonica della Scala in Milan. His long and outstanding musical career is marked by his recent appointment as Music Director Designate of Teatro alla Scala (from 2027).

For the Tokyo Phil, Maestro Chung was Special Artistic Advisor from 2001 to 2010, and its Honorary Conductor Laureate from 2010 to 2016. In September 2016 he was appointed Honorary Music Director. He has also undertaken numerous overseas tours with the Tokyo Phil. Most recently, he led their European tour in autumn 2025 to landmark success.

He is active in education for the younger generation and in promotion of peace, especially in Asia through a variety of musical activities. He currently serves as a UNICEF Ambassador.

18  
Feb23  
Feb



©Yuji Ueno

## Seiji Okamoto, violin

Seiji Okamoto is a Berlin-based Japanese violinist who has built an international career marked by major competition successes and performances with leading orchestras. In 2014, he won First Prize and the Audience Award at the International J. S. Bach Competition in Leipzig, becoming the first Asian winner in the violin category. He was awarded Second Prize at the International Henryk Wieniawski Violin Competition in Poland in 2016, and became a Laureate of the Queen Elisabeth International Music Competition in Brussels in 2019. In 2021, he achieved First Prize at the ARD International Music Competition in Munich, also receiving several special prizes, including awards for the interpretation of the commissioned work.

As a soloist, he has performed with renowned orchestras such as the Konzerthausorchester Berlin, Bavarian Radio Symphony Orchestra, MDR Symphony Orchestra Leipzig, Vienna Chamber Orchestra, NHK Symphony Orchestra, and major orchestras throughout Europe and Japan. He has appeared at leading international festivals including Bachfest Leipzig, Kronberg Academy Festival, and Moritzburg Festival.

Alongside his solo activities, he is deeply engaged in chamber music and curates a long-term recital project in Japan focusing on works by Bach, Schumann, and Brahms. He is a core member of the Japan National Orchestra, regularly appearing as concertmaster and soloist.

# Program Notes

Text by Robert Markow

Weber:

## Overture to the opera "Der Freischütz", Op. 77

*Der Freischütz*, the third of Weber's five complete, extant operas, marked the first important instance of a national German opera. In form, it descended from the *Singspiel* tradition – stage works with passages of spoken German dialogue alternating with musical numbers – but in content it set itself apart from its illustrious predecessors like Mozart's *Zauberflöte* and Beethoven's *Fidelio* through the use of specifically German subject matter. One writer observed that the Overture to *Der Freischütz* could easily be the overture to one of Grimm's fairy tales, for the heart and soul of German folklore is embodied in this opera, involving as it does a dark mysterious forest, huntsmen, a friendly hermit, ghosts, evil spirits, a devil and a pair of lovers.

Weber selected the story from a collection of supernatural tales, the *Gespensterbuch* (Ghost Stories) of Apel and Laun. Friedrich Kind fashioned the libretto, working closely with Weber. The complete opera had a highly successful premiere in Berlin on June 18, 1821, but the overture alone had first been heard nine months earlier in Copenhagen, and was published separately under its own opus number.

The overture is a synthesis of the opera that follows. The slow introduction features a horn quartet, softly and gently evoking the peaceful, romantic forest. A dark shadow crosses the sylvan setting – the evil Samiel lurks about, portrayed by a string tremolo and soft throbs from the timpani. The music of the *allegro* section is at first stormy and restless, representing the events of the wild, macabre Wolf's Glen scene, replete with ghosts, goblins, eerie winds and a host of supernatural occurrences. This leads into a long solo for the clarinet, Weber's favorite instrument. Then comes the heroine Agathe's theme – a soaring, graceful melody in the clarinet and strings. Throughout the symphonic development, the forces of good and evil engage in a dramatic conflict. As in most fairy tales, good triumphs in the end. Following a long, pregnant pause, *fortissimo* chords for the full orchestra lead to a return of Agathe's theme, and the overture ends joyously.

18  
Feb

23  
Feb

**CARL MARIA VON WEBER:** Born in Eutin (near Lübeck), Germany, November 18, 1786; died in London, June 5, 1826

**Work composed:** 1821 **World premiere:** June 18, 1821 at the Royal Theatre (Schauspielhaus) in Berlin, conducted by the composer

**Instrumentation:** 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 3 trombones, timpani, strings

## Bruch: Violin Concerto No. 1 in G minor, Op. 26

Bruch began working on his First Violin Concerto in the mid 1850s but put it aside for a number of years. It was completed and first performed in 1866. Otto von Königslow performed the work in Koblenz on April 24, with the composer conducting. But Bruch was not satisfied with the concerto; after some revisions, he submitted it to the famous violinist Joseph Joachim for comment. Joachim suggested numerous changes, but rejected the composer's opinion that, because of the free-form first movement, it would be better entitled a fantasy than a concerto. Joachim wrote: "The designation concerto is completely apt. Indeed, the second and third movements are too fully and symmetrically developed for a fantasy. The separate sections of the work cohere in a lovely relationship, and yet – and this is the most important thing – there is adequate contrast. Moreover, Spohr entitled his *Gesangszene* a concerto!" The final version was first heard in Bremen probably on January 7, 1868 (some sources claim January 5). Nearly forty years later, Joachim still ranked the concerto as one of the four greatest of the nineteenth century, alongside those of Beethoven, Mendelssohn and Brahms, noting that Bruch's was "the richest, the most seductive."

The composer himself had these comments to make regarding his interest in the violin: "In my youth I studied the violin for four or five years. ... The violin seemed to me even at that time the queen of instruments. ... I was destined by nature to write compositions for the voice, and I always studied singing with special interest and have associated largely with singers. This tendency has, of course, also been displayed in my violin works."

The first movement, marked "Prelude," does not follow the standard sonata-allegro form. Nevertheless, its dark undercurrent of passion and drama serves to maintain interest. A brief cadenza precedes the orchestral transition to the second movement, the emotional heart of the concerto. Here

18  
Feb23  
Feb

we find three distinct themes, some of the loveliest and most lyrical in the violin repertory. A vigorous, energetic orchestral passage introduces the third movement. The soloist enters with a full statement of the gypsy-like theme, played with virtuosic flair across all four strings of the instrument. It has been suggested that Brahms had this movement in mind when he composed the finale of his own violin concerto. A more expansive and lyrical second theme alternates with the first, and the movement builds to an exciting, brilliant conclusion.

**MAX BRUCH:** Born in Cologne, January 6, 1838; died in Friedenau, near Berlin, October 2, 1920

**Work composed:** 1864-66 (revised 1867) **World premiere:** [First Version] April 24, 1866 in Koblenz, conducted by the composer with Otto von Königslow as soloist [Revised Version] January 7 (?), 1868 in Bremen, conducted by Karl Martin Reinthaler with Joseph Joachim as soloist

**Instrumentation:** 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, timpani, strings, solo violin

18  
Feb23  
Feb

## Mendelssohn: Symphony No. 3 in A minor, Op. 56 "Scottish"

Mendelssohn spent July and August of 1829 touring Scotland with his friend Carl Klingemann (secretary to the Hanoverian Legation in London). Through his letters we know in considerable detail Mendelssohn's reactions, mostly favorable, to the Highland country, its weather, and its people with their "long, red beards, tartan plaids, bonnets and feathers, naked knees, and their bagpipes in their hands." One day in Edinburgh he came upon the picturesque ruins of the Palace of Holyrood, in which Mary, Queen of Scots, had once lived.

On July 30, Mendelssohn wrote home that "in the darkening twilight" he "went to the Palace where Queen Mary lived and loved. There is a little room to be seen there with a spiral staircase at its door. That is where they went up and found Rizzio in the room, dragged him out, and three chambers away there is a dark corner where they murdered him. The chapel beside it has lost its roof and is overgrown with grass and ivy, and at that broken altar Mary was crowned Queen of Scotland. Everything there is ruined, decayed, and open to the clear sky. I believe that I have found there today the beginning of my

Scottish Symphony.”

The “beginning of my Scottish Symphony” consisted of a scrap of paper containing a few bars of music. That is all that became of the symphony until twelve years later, by which time Mendelssohn had already been to Italy and had written his *Italian* Symphony. In 1831, he wrote from Italy that he could not find his way back into the Scottish fog mood, a quite understandable condition given Italy’s sunny climes. The *Scottish* Symphony was eventually completed in January of 1842. The symphony received its premiere in Leipzig on March 3, 1842, with Mendelssohn on the podium. The work was not very well received, but after revisions, it was heard again two weeks later, this time to great applause. The published score was dedicated to “H. M. Queen Victoria of Great Britain and Ireland” in 1843, following performances in London.

The subtitle, “Scottish” (or “Scotch” – no one seems sure which is correct), appears in Mendelssohn’s correspondence about the symphony, but he never wrote it on the score, parts, piano reduction or the printed programs. Is there anything really “Scottish” about the work? Well, yes and no. The degree of “Scottishness” depends on the individual listener’s susceptibility to programmatic suggestion and on hindsight. The somber, melancholic opening is certainly at least suggestive of the brooding, misty Scottish land; the ebullient clarinet theme of the Scherzo may be based on a Scottish folk air, since the scale pattern corresponds to that of the country’s folk music; the leaping, vigorous, dance-like main theme of the finale is thought by some to be a musical representation of the gathering of the clans.

**FELIX MENDELSSOHN:** Born in Hamburg, February 3, 1809; died in Leipzig, November 4, 1847

**Work composed:** 1829-42 **World premiere:** March 3, 1842 in the Leipzig Gewandhaus, conducted by the composer

**Instrumentation:** 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, timpani, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for numerous orchestras and other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal’s McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

## Season 2026-27 Upcoming Subscription Concerts

The Tokyo Philharmonic's new season has begun. A rich array of masterpieces that capture the true essence of orchestral music awaits audiences. Please join us on our musical journey and enjoy every concert, filled with musical joy, together with the Tokyo Philharmonic.

May 2026	<b>Wed, May 13</b> 2026, 19:00 start at Suntory Hall <b>Sun, May 17</b> 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Conductor: Andrea Battistoni <i>Chief Conductor</i> Soprano: Yui Takahashi
	Schumann (orch. by Battistoni, world premiere): Kinderszenen (Scenes from Childhood) Mahler: Symphony No. 4 <span style="float: right;">Single tickets available</span>	
June 2026	<b>Thu, Jun 18</b> , 2026, 19:00 start at Suntory Hall <b>Sun, Jun 21</b> , 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Conductor & Violin: Pinchas Zukerman
	Mozart: Overture from opera "Le nozze di Figaro" Mozart: Violin Concerto No. 3 Mozart: Symphony No. 40 <span style="float: right;">Single tickets available</span>	
July 2026	<b>Thu, Jul 23</b> , 2026, 19:00 start at Suntory Hall <b>Sun, Jul 26</b> , 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall <b>Wed, Jul 29</b> , 2026, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall	Conductor: Myung-Whun Chung <i>Honorary Music Director</i> Carmen: Stéphanie d'Oustrac Don José: Matthew Polenzani Escamillo: Nicolas Courjal Micaëla: Slávka Zámečnicková Chorus: New National Theatre Chorus Children Chorus: Setagaya Junior Chorus, and more
	Bizet: Opera "Carmen" (concert style) <span style="float: right;">Single tickets available from April on</span>	
August 2026	<b>Thu, Aug 6</b> , 2026, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall <b>Tue/Holiday, Aug 11</b> , 2026, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall	Conductor: Ken-Ichiro Kobayashi Violin: Keila Wakao
	Mendelssohn: Violin Concerto Rimsky-Korsakov: Symphonic suite "Scheherazade" <span style="float: right;">Single tickets available from April on</span>	

October 2026	<p><b>Thu, Oct 15, 2026</b>, 19:00 start at Suntory Hall</p> <p><b>Fri, Oct 16, 2026</b>, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p> <p><b>Sun, Oct 18, 2026</b>, 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall</p>	<p>Conductor: Myung-Whun Chung <i>Honorary Music Director</i></p> <p>Violin: Maxim Vengerov</p>
		Single tickets available from April on
	Sibelius: Violin Concerto Beethoven: Symphony No. 7	
November 2026	<p><b>Sun, Nov 15, 2026</b> 15:00 start at Bunkamura Orchard Hall</p> <p><b>Mon, Nov 16, 2026</b>, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p>	<p>Conductor: Mikhail Pletnev <i>Special Guest Conductor</i></p>
		Single tickets available from April on
	Pletnev: 14 Mémoires musicales (2024) Tchaikovsky: Symphony No. 4	
January 2027	<p><b>Thu, Jan 21, 2027</b>, 19:00 start at Suntory Hall</p> <p><b>Mon, Jan 25, 2027</b>, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p>	<p>Conductor &amp; Bassoon: Sophie Dervaux</p>
		Single tickets available from April on
	Mozart: Overture from opera "The Magic Flute" Weber: Bassoon Concerto (The 200th anniversary of Weber's death) Brahms: Symphony No. 1	
February 2027	<p><b>Thu, Feb 18 2027</b>, 19:00 start at Tokyo Opera City Concert Hall</p> <p><b>Wed, Feb 24, 2027</b>, 19:00 start at Suntory Hall</p>	<p>Conductor: Myung-Whun Chung <i>Honorary Music Director</i></p> <p>Piano: Saehyun Kim</p>
		Single tickets available from April on
	Beethoven: Piano Concerto No. 4 (The 200th anniversary of Beethoven's death) Saint-Saëns: Symphony No. 3 "Organ"	

## Ticket Prices

( )=Discount prices for TOKYO PHIL FRIENDS

SS¥15,000 S¥10,000(¥9,000) A¥8,500(¥7,650) B¥7,000(¥6,300) C¥5,500(¥4,950)

**How to join TOKYO PHIL FRIENDS** ⇒ <https://www.tpo.or.jp/en/tickets/friends.php>

### Inquiries about tickets

Tokyo Phil Ticket Service tel: **03-5353-9522**

(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



## 東京フィルだより -2026-27シーズン 今後の定期演奏会

### 5月定期演奏会

1回券発売中

第1030回サントリー定期シリーズ

5月13日(水) 19:00 サントリーホール

第1031回オーチャード定期演奏会

5月17日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

ソプラノ：高橋 維\*

シューマン(バッティストーニ編) /

『子供の情景』〈世界初演〉

マーラー / 交響曲第4番\*



アンドレア・バッティストーニ ©上野隆文



高橋 維

### 6月定期演奏会

1回券発売中

第1032回サントリー定期シリーズ

6月18日(木) 19:00 サントリーホール

第1033回オーチャード定期演奏会

6月21日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮・ヴァイオリン：ピнкаス・ズーカーマン

モーツァルト / 歌劇『フィガロの結婚』序曲

モーツァルト / ヴァイオリン協奏曲第3番

モーツァルト / 交響曲第40番



ピнкаス・ズーカーマン ©上野隆文

【料金】1回券 SS席¥15,000 S席¥10,000 A席¥8,500 B席¥7,000 C席¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)

お申込み・お問合せは  
東京フィルチケット  
サービスまで

03-5353-9522 (10時~18時/発売日を除く土日祝休)  
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)



【特別寄稿】アンドレア・バッティストーニが綴る

### ローベルト・シューマンとグスタフ・マーラー： 幼時の記憶を呼び覚ます音楽

文=アンドレア・バッティストーニ／訳=松村哲哉

©上野隆文

5月定期には首席指揮者アンドレア・バッティストーニが登場。自身の編曲によるシューマンのピアノ曲『子供の情景』（世界初演）とマーラー「交響曲第4番」を取り上げます。夢見るような調べをふんだんに混えた二つの作品を、マエストロはどのように奏でるのでしょうか。

#### 音楽史上もっとも偉大な作曲家の一人、シューマン

音楽の勉強を始めた頃から、ローベルト・シューマンの音楽は、私のレパートリーの中で常に特別な位置を占めてきました。チェロを学んでいた若い頃、私は「民謡風の5つの小品」から協奏曲まで、チェロのために書かれた多くの作品に取り組みました。また、若い音楽家への助言や批評家としての文章など、シューマンの著作はいずれも興味深く、深い感銘を与えてくれました。さらに「交響曲第4番」は、私が指揮者としてデビューした演奏会で取り上げた作品でもあります。

シューマンは、音楽史上もっとも偉大な作曲家の一人だと思います。その遺産は、ロマン派の中でもとりわけ独創的な作品群として、今なお強い存在感を放って

います。加えて私が共感するのは、「音楽は物語である」という考えです。シューマンの音楽は常に何かを語りかけ、秘密めいた物語をほめかしますが、ベルリオーズやリストに見られるような、音楽とは無縁の事柄をいかにもそれらしく描写するものではありません。詩と響きの対話を、繊細かつ示唆的な方法で掘り下げているのです。



ロベルト・シューマン(1810-1856)。妻クララとともに

## 「小品」の天才

小品の名手であるシューマンは、親しい仲間と語らうような親密な音楽で真価を発揮します。ソナタや交響曲といった、これぞ「クラシック」という楽曲になると、時に力が入りすぎて発想をまとめきれなくなることもあります。ピアノの小品集のような形態では常に優れた成果を生み出しました。それは即興を、あるいはイメージやテキストから呼び覚まされた感興を、そのまま書き留めたメモのような音楽です。

有名な「子供の情景」は、シューマンが小品でこそ才能を発揮することを示す代表例です。子供時代のささやかな記憶に触発された13の小品はいずれも、簡潔さを超える表現の深さを備えています。そこで描かれるのは、好奇心が喜びに、涙が笑顔へと変わるような、子供の気まぐれで移ろいやすい姿です。

私たち大人は、こうした変化を表面的なものとして捉えがちですが、痛ましい病歴を持つシューマンにとって子供とは、現実と幻想のあいだを生きるロマン派芸術家の原型でした。「子供の情景」の子供は理想化された存在です。物語の世界で進軍ラッパを吹き鳴らしながら木馬にまたがっていたかと思えば、自分の手に負えない問題に直面して真顔になる。突然の知らせに興奮して走り回っていたかと思うと、幸福な夢を見ながら眠りにつく。その姿が音楽に映し出されています。

## オーケストレーション

聴き手の想像力をかき立てるシューマンのピアノ書法に魅了された私は、この偉大な作曲家へのオマージュとして、その独自の音の世界を損なうことなく、この名曲を管弦楽曲にしようと考えました。編成は、シューマン自身が用いたであろう中規模

のオーケストラです。トロンボーンやハープ、華やかな打楽器は用いず、室内乐的な親密さを保つ響きを目指しました。

## マーラーと交響曲第4番

今夜の演奏会は、子供心をどこかに残した人々に、幼時の記憶が語りかけるような流れで進みます。その点でマーラーもまたシューマンに引けを取りません。マーラーは生涯を通して子供時代の記憶に向き合い、おとぎ話の世界と悪夢、天上的な美しさと恐ろしいイメージの両面を音楽に描きました。

名高い交響曲第4番もその一例です。もとは第3番のための歌曲に由来し、そこから他の楽章へとさかのぼる形で作曲されました。ファンファーレやグロテスクな場面、濃厚なロマン性といったマーラーらしい要素が、ハイドンやシューベルトを思わせる新古典的な雰囲気と結びついています。

この曲にも独特の緊張感があります。甘美な旋律は、いつ何時皮肉な笑みへと変わるかもしれません。第2楽章で、わざと高く調弦したヴァイオリンによって象徴される「死」の影は、その後も消えることなく、理想をあざ笑い、ソプラノが歌う小さな天使たちの世界さえ揺さぶります。

この交響曲では、壮大で英雄的なポスト・ワーグナー的要素は後景に退いています。そこに響くのは、剣を取って争う世界ではなく、失われた子供時代の余韻です。手にする剣があるとしても、せいぜい木のおもちゃの剣。人はそれを手に、心の中で自分自身と向き合いながら、成熟への最初の小さな闘いを経験するのです。



グスタフ・マーラー  
(1860-1911)



マーラー「交響曲第4番」でソプラノ独唱を担う高橋維

まつむら・てつや(翻訳家)／慶應義塾大学経済学部卒。27年の会社勤務を経て、現在はおもにクラシック音楽に関する書籍の翻訳を手がける。主な訳書に『指揮者は何を考えているか』『オーケストラの音楽史』『音楽史を変えた五つの発明』(以上、白水社)、『若い読者のための音楽史』(すばる舎)、など。

## News &amp; Information

## 提携都市公演 軽井沢大賀ホール2026春の音楽祭 好評発売中!

日時 5月2日(土)16:00開演(15:30開場)

会場 軽井沢大賀ホール

出演 指揮:大友直人、チェロ:水野優也\*、  
管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

曲目 モーツァルト／歌劇『フィガロの結婚』序曲  
ドヴォルザーク／チェロ協奏曲\*  
ベートーヴェン／交響曲第6番『田園』

料金(税込・全席指定) SS席¥11,000 S席(1階・2階)¥10,000 A席¥8,000 B席¥6,500 C席(2階立見席)¥4,500 W席(2階合唱席)¥5,000

※C席(2階立見席)、W席(2階合唱席)は軽井沢大賀ホールチケットサービスのみ取扱いとなります

チケット問合せ 軽井沢大賀ホールチケットサービス0267-31-5555(10:00~18:00(休館日を除く))、東京フィルチケットサービス03-5353-9522(平日10:00~18:00)



大友直人 ©Rowland Kirishima



水野優也 ©Yuji Ueno

## 2026年2月よりクラリネット首席奏者としてリー・リーリン(Li-Ling LEE)が入団いたしました。

「みなさん、初めまして。クラリネットのリー・リーリンです。

長い歴史と伝統を持つ東京フィルハーモニー交響楽団の一員として舞台上に立てることを、大変光栄に思っております。海外を含むさまざまな演奏の機会を通して、多くの音楽を学び、経験を重ねてまいりました。

オーケストラの中で音楽をつくる喜びを大切にしながら、一音一音に誠実に向き合い、響きに貢献できるよう努めてまいります。

今後ともどうぞよろしく願っています」。



## 2026-27シーズン 今後の定期演奏会

東京フィルの2026-27シーズン、5月・6月定期演奏会の1回券は、ただいま好評発売中です。世界を舞台に活躍するマエストロたちとの音楽の喜びに満ちたドラマティックなコンサートが、今年も皆様をお待ちしています。

### 7・8・10・11・2027/1・2月公演 1回券発売日

最優先(賛助会員・定期会員様)	4月4日(土)10:00～ ※お電話のみ
優先(東京フィルフレンズ会員様)	4月11日(土)10:00～ ※お電話のみ
WEB優先発売期間	4月11日(土)10:00～5月7日(木)23:59
一般発売	5月8日(金)10:00～

5月	第1030回 5月13日(水) 19:00 サントリーホール	指揮: アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者) ソプラノ: 高橋 維*	1回券発売中
	第1031回 5月17日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
シューマン(バッティストーニ編) / 『子供の情景』(世界初演) マーラー / 交響曲第4番*			
6月	第1032回 6月18日(木) 19:00 サントリーホール	指揮・ヴァイオリン: ピンカス・ズーカーマン	1回券発売中
	第1033回 6月21日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
モーツァルト / 歌劇『フィガロの結婚』序曲 モーツァルト / ヴァイオリン協奏曲第3番 モーツァルト / 交響曲第40番			
7月	第1034回 7月23日(木) 19:00 サントリーホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) カルメン: ステファニー・ドゥストラック ドン・ホセ: マシュー・ポレンザーニ エスカミーリョ: ニコラ・クルジャル ミカエラ: スラーフカ・ザメチニーコヴァー 合唱: 新国立劇場合唱団 児童合唱: 世田谷ジュニア合唱団 (ほか)	1回券4月発売
	第1035回 7月26日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
	第175回 7月29日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール		
	ビゼー / 歌劇『カルメン』(オペラ演奏会形式) 全3幕・日本語字幕付き原語(フランス語)上演 公演時間:約3時間(休憩含む)		
8月	第176回 8月6日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	指揮: 小林研一郎 ヴァイオリン: 若尾圭良*	1回券4月発売
	第1036回 8月11日(火・祝) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
	メンデルスゾーン / ヴァイオリン協奏曲* リムスキー=コルサコフ / 交響組曲『シェエラザード』		

10月	第1037回 10月15日(木) 19:00 サントリーホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ヴァイオリン: マキシム・ヴェンゲーロフ*
	第177回 10月16日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	
第1038回 10月18日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール		
シベリウス/ヴァイオリン協奏曲* ベートーヴェン/交響曲第7番		1回券4月発売
11月	第1039回 11月15日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	指揮: ミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)
	第178回 11月16日(月) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	
プレトニョフ/14の音楽的記憶(2024) チャイコフスキー/交響曲第4番		1回券4月発売
2027年 1月	第1040回 1月21日(木) 19:00 サントリーホール	指揮・ファゴット: ソフィー・デルヴォー ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団およびウィーン国立歌劇場管弦楽団首席ファゴット奏者
	第179回 1月25日(月) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	
モーツァルト/歌劇『魔笛』序曲 ウェーバー/ファゴット協奏曲<ウェーバー没後200年> ブラームス/交響曲第1番		1回券4月発売
2月	第180回 2月18日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	指揮: チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ピアノ: キム・セヒョン*
	第1041回 2月24日(水) 19:00 サントリーホール	
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第4番* <small>(ベートーヴェン没後200年)</small> サン=サーンス/交響曲第3番『オルガン付き』		1回券4月発売

## 1回券料金(全席指定・税込)

SS席 ¥15,000 S席 ¥10,000(¥9,000) A席 ¥8,500(¥7,650)

B席 ¥7,000(¥6,300) C席 ¥5,500(¥4,950) ( )=東京フィルフレンズ料金

| お問い合わせ 東京フィルチケットサービス

詳細はこちら

Tel 03-5353-9522 (平日10時~18時・土日祝日休/  
発売日の土日祝は10時~16時)URL [www.tpo.or.jp/](http://www.tpo.or.jp/) (24時間受付・座席選択可)

## 午後のコンサート。 2026-27シーズンラインナップ

屋下がりにはリラックス気分でフル・オーケストラの演奏を堪能できる、東京フィルの大人気シリーズ「午後のコンサート」。迫力満点の生演奏の合間に出演者が皆様のご質問にお答えするコーナーもあり、楽しいひとときをお過ごしいただけます。今シーズンも皆様のお越しをお待ちしております。



イラスト:ハラダチエ

### 渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

4月19日(日)第29回  
**コバケンの思い出**

指揮とお話:  
**小林研一郎**

ナビゲーター:  
**永井美奈子**



©K.Miura

7月5日(日)第30回  
**旅する北欧**

指揮とお話:**横山 奏**  
ヴァイオリン:**吉本梨乃**  
ゲスト・語り:**石丸謙二郎**



©平鍋平 ©藤田啓二

9月13日(日)第31回  
**チェロ弾きの休日**

指揮とお話:  
**円光寺雅彦**  
チェロ:**山崎伸子**



©K.Miura

12月6日(日)第32回  
**ジャズに魅せられて**

指揮とお話:**挟間美帆**  
トランペット:**黒田卓也**  
※12月7日(月)平日の午後のコンサートと同演目です。



©Dave Stapleton

### 平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

8月12日(水)第41回  
**コバケンのベートーヴェン!**

指揮とお話:  
**小林研一郎**

ピアノ:**金子三勇士**  
ナビゲーター:**朝岡 聡**



©K.Miura ©Seiichi Saito

10月5日(月)第42回  
**絢爛たる一族**

指揮とお話:**角田鋼亮**  
ヴァイオリン:**服部百音**  
※10月4日(日)休日の午後のコンサートと同演目です。



©Makoto Kamiya ©YUJII HORII

12月7日(月)第43回  
**ジャズに魅せられて**

指揮とお話:**挟間美帆**  
トランペット:**黒田卓也**  
※12月6日(日)渋谷の午後のコンサートと同演目です。



©Dave Stapleton

2027年2月10日(水)  
第44回

**不死鳥が舞う**  
指揮とお話:**出口大地**  
ピアノ:**花房晴美**



©hiro.pberg berlin ©武藤幸

休日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

託児あり

9月20日(日)第108回

秋の大感謝祭  
～イタリア編～

指揮とお話:三ツ橋敬子  
ほか



©Earl Ross

10月4日(日)第109回

絢爛たる一族

指揮とお話:角田鋼亮  
ヴァイオリン:服部百音

※10月5日(月)平日の午後の  
コンサートと同演目です。



©Makoto Kamiya

©YUJI HORI

11月29日(日)

第110回

オーケ  
なんでもOKストラ!!

指揮とお話:  
円光寺雅彦  
ピアノ:清塚信也



©上野隆文

2027年3月7日(日)

第111回

春、はばたく。

指揮:  
ケンショウ・ワタナベ  
チェロ:鳥羽咲音



©Abigel Kralik

©Julia Wesely

午後のコンサート。 4回セット券 発売スケジュール

最優先発売 (賛助会員・定期会員) ※お電話のみ受付	優先発売 (東京フィルフレンズ会員) ※お電話のみ受付	WEB優先発売 期間中はどなたでも お求めいただけます	一般発売
発売中	発売中	発売中 2/24(火)23:59	2/25(水)10:00

◆渋谷/平日/休日 各シリーズ共通 4回セット券

4回セット券料金	S席	A席	B席	C席
定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
東京フィルフレンズ会員/WEB優先発売期間	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560

※1回券は4回セット券で残席がある場合のみ販売いたします。  
 ※やむを得ない事情により、出演者・曲目などが変更になる場合がございます。  
 ※公演中止の場合を除き、お求めいただいたチケットの払戻・変更等はいたしかねます。  
 ※未就学児のご入場はお断りしております。東京オペラシティでの公演では  
 託児サービス(要予約・有料)をご利用いただけます。ご予約はマザーズの  
 公式LINEよりお申し込みください。



お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (平日10時～18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時～16時で営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>



## Photo Reports 2026年1月のコンサートより

新しい年の幕開け、1月は恒例のニューイヤーコンサートに始まり、日本のマエストロと日本の若きソリストたちとの文京シビックホール「響きの森クラシック」、そして1月定期演奏会を開催いたしました。

### ニューイヤーコンサート(1/2、3) ～どこかで出会った、あのメロディ～

撮影=K.Miura

指揮：和田一樹

ヴァイオリン：辻 彩奈(1/2のみ)

ピアノ：天野 薫(1/3のみ)

司会：朝岡 聡

J. シュトラウスⅡ/ワルツ『美しく青きドナウ』

ブルッフ/スコットランド幻想曲(1/2のみ)

モーツァルト/ピアノ協奏曲第17番より(1/3のみ)

お客様の投票で演奏曲が決まる「福袋プログラム」

スメタナ/『我が祖国』よりモルダウ、パッヘルベル/カノン(1/2)

モーツァルト/「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」より第1楽章、ボロディン/『イーゴリ公』よりだつたん人の踊り(1/3)

ラヴェル/ボレロ



年始の装飾や獅子舞でお客様をお出迎える人気のコンサートが今年も開催



ヴァイオリニスト辻彩奈(1/2)、12歳のピアニスト天野薫(1/3) 指揮は両日ともマエストロ和田一樹

### 文京シビックホール 響きの森クラシック・シリーズ Vol.86(1/17) 撮影=K.Miura

指揮：小林研一郎 ※指揮者が当初の発表から変更となりました。 チェロ：北村 陽\*

コンサートマスター：依田真宣

チャイコフスキー/スラヴ行進曲

チャイコフスキー/ロココの主題による変奏曲\*

【ソリスト・アンコール】 カザルス/鳥の歌

チャイコフスキー/交響曲第4番



## 1月定期演奏会（1/23、25） 撮影=上野隆文/事務局

指揮：渡邊一正 ※当初の発表から変更となりました

ピアノ：五十嵐薫子\*

コンサートマスター：三浦章宏

レスピーギ／ピアノと管弦楽のためのトッカータ\*

〈日本・イタリア外交関係樹立160周年／レスピーギ没後90年〉

【ソリスト・アンコール】

レスピーギ／『6つの小品』第1番「甘美なワルツ」(1/23)

スカルラッチィ／ソナタ K. 96 L. 465(1/25)

マーラー／交響曲第1番『巨人』



ヨーロッパ・ツアー2025(指揮：名誉音楽監督チョン・ミョンフン)②  
[プログラムB/C]編

日程/会場： 11月1日(土)デ・シングル ©Britt Ryckebosch  
11月3日(月)アル・オ・グラン劇場 ©William Wartel  
11月6日(木)カタルーニャ音楽堂 ©Toni Bofill  
11月8日(土)ウィーン・コンツェルトハウス ©Ayano Tomozawa  
11月10日(月)ルガーノ・アルテ・エ・クルトゥーラ ©LAC Lugano Arte e Cultura

指揮：チョン・ミョンフン(名誉音楽監督) ヴァイオリン：マキシム・ヴェンゲーロフ\*

コンサートマスター：近藤薫、三浦章宏、依田真宣

チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲\*

ストラヴィンスキー／バレエ音楽『春の祭典』



デ・シングル



アル・オ・グラン劇場



カタルーニャ音楽堂



コンツェルトハウス・ウィーン



LAC ルガーノ・アルテ・エ・クルトゥーラ



リハーサル後にヴェンゲーロフ氏と集合写真

## [アウトリーチ]編

10月30日(木) ブダペスト日本人学校ワークショップ

出演：依田真宣(コンサートマスター)、宮川正雪(第二ヴァイオリン首席)、加藤大輔(ヴィオラ副首席)、服部誠(チェロ首席)、斉藤和志(フルート首席)、秋田孝訓(打楽器奏者)

11月3日(月) Lycée Ozenne (オゼンヌ高校)ワークショップ&マスタークラス

出演：坪江夏美(アシスタントコンサートマスター)、黒川美咲(チェロ フォアシュピラー)、  
神田勇哉(フルート首席)、アレッサンドロ・ベヴェラリ(クラリネット首席)、リー・リーリン  
(クラリネット首席)、鳥潟さくら(クラリネット奏者)

11月5日(水) バルセロナ日本人学校創立40周年記念コンサート

出演：三浦章宏(コンサートマスター)、藤村政芳(第二ヴァイオリン首席)、須田祥子(ヴィオラ首席)、渡邊辰紀(チェロ首席)

11月8日(土) ウィーン日本人国際学校ワークショップ

出演：藤村政芳(第二ヴァイオリン首席)、高橋臣宜(ホルン首席)、船迫優子(打楽器奏者)、  
江上菜々子(ピアノ奏者)



ブダペスト日本人学校



バルセロナ日本人学校



Lycée Ozenne高校



ウィーン日本人国際学校

向春の候、皆様におかれましてはお変わりなくご健勝のことと存じます。

今月は、名誉音楽監督チョン・ミョンフンが昨秋のヨーロッパツアー以来の登場。

国際的に活躍する若手ヴァイオリニスト岡本誠司氏と共に

ドイツ・オーストリアの佳品をお届けいたします。

当楽団への引き続いてのご支援を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

## 賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。ここに法人ならびに個人賛助会員(パートナー会員)の皆様のご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

### オフィシャル・サプライヤー (敬称略)

ソニーグループ株式会社	代表執行役 社長 CEO	十時 裕樹
楽天モバイル株式会社	代表取締役会長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	中島 英樹
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	笠間 貴之

### 法人会員

#### 賛助会員 (五十音順・敬称略)

(株)III  
代表取締役社長 井手 博

(株)アイエムエス  
取締役会長 前野 武史

(医)相澤内科医院  
理事長 相澤 研一

アイ・システム(株)  
代表取締役会長 松崎 務

(株)アシックス  
代表取締役社長COO 富永 満之

(株)インターテキスト  
代表取締役 海野 裕

ANAホールディングス(株)  
代表取締役社長 芝田 浩二

(株)NHKエンタープライズ  
代表取締役社長 有吉 伸人

大塚化学(株)  
特別相談役 大塚 雄二郎

(株)オーディオテクニカ  
代表取締役社長 松下 和雄

(公財)オリックス宮内財団  
代表理事 宮内 義彦

カシオ計算機(株)  
代表取締役 社長 CEO 高野 晋

キヤノン(株)  
代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫

(株)グリーンハウス  
代表取締役社長 田沼 千秋

サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 鳥井 信宏

信金中央金庫  
理事長 柴田 弘之

(株)JERA  
代表取締役社長CEO兼COO 奥田 久栄

(株)J.Y.PLANNING  
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶  
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー  
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)  
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)  
代表取締役社長 小澤 真也

ソニーグループ(株)  
代表執行役 社長 CEO 十時 裕樹

ソニー生命保険(株)  
代表取締役社長 高橋 薫

(株)ソニーミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長グループCEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店  
代表取締役社長 宗森 耕二

都築学園グループ  
総長 都築 仁子

東急(株)  
取締役社長 堀江 正博

東京オペラシティビル(株)  
代表取締役社長 長島 誠

東京銀座ウエルネス&エイジングクリニック  
院長 檜山 和寛

東レ(株)  
代表取締役社長 大矢 光雄

TOPPANエッジ(株)  
代表取締役社長 齊藤 昌典

DOWAホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO 関口 明

(株)ニチケアパレス  
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ  
代表取締役社長 柴尾 雅春

日本ライフライン(株)  
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル  
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)  
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家  
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行  
頭取CEO 福留 朗裕

三菱地所(株)  
執行役社長 中島 篤

三菱倉庫(株)  
代表取締役社長 齊藤 秀親

(株)三菱UFJ銀行  
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)  
代表取締役 清水 宣明

(株)明治  
代表取締役社長 八尾 文二郎

森ビル(株)  
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)  
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器  
代表取締役社長 山野 政彦

ユニアデックス(株)  
代表取締役社長 田中 建

ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア  
理事長 今西 宏明

楽天モバイル(株)  
代表取締役会長 三木谷 浩史

(株)リソー教育グループ  
代表取締役社長 天坊 真彦

後援会員

(株)アグレックス  
代表取締役社長 柳井 城作

旭化成ホームズ(株)  
代表取締役社長 大和久 裕二

(医)エレル たにぐちファミリークリニック  
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)  
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア  
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院  
理事長 加藤 徹

(医)康明会  
理事長 遠藤 正樹

(株)鈴元  
代表取締役 鈴木 信史

(医)だて内科クリニック  
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・垂蓮寺  
代表役員 若林 隆壽

(一財)凸版印刷三幸会  
代表理事 金子 真吾

(株)日税ホールディングス  
代表取締役会長 吉田 雅俊

(株)ネスト  
代表取締役 太田 潤

富士通(株)  
代表取締役社長CEO 時田 隆仁

本田技研工業(株)  
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)  
執行役社長 漆間 啓

## ご支援の御礼とお願い

昨今の社会情勢において、皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団は、1911年(明治44年)に創設され、この西洋発祥の音楽文化を日本の近代化の中でいち早く受容し、様々な試行錯誤を繰り返しつつ、音楽を社会に届けるという使命を貫いて参りました。

東京フィルは世界でも数少ない自主運営の楽団です。

今後さらに安定的・発展的な財政基盤を構築し、いつその発展をはかるために、皆様のご寄附が力となります。

皆様におかれましては、あらためて当団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、一層のご支援・ご助力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。東京フィルが取り組む、実り豊かな未来を創る活動へのご支援をお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただきましたら幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会(次ページ)も併せてご覧ください。

金融機関名	ゆうちょ銀行(郵便振替)	三井住友銀行・東京公務部(096)
口座番号	00120-2-30370	普通預金 3003239
口座名義	公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団	

※寄附金額は自由に設定いただけます。

※振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※領収証書が必要な方は、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項を記入し、下記送付先へご送付ください。

寄附申込書の書式は下記ウェブサイトまたは問合せ先へご照会ください。



寄附申込書・賛助会入会申込書はこちらからも取得いただけます。  
<https://www.tpo.or.jp/support>

### ご支援・賛助会に関するお問合せ／寄附申込書 送付先

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当  
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階  
Fax: 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp  
Tel: 03-5353-9521(土日祝日を除く10時~18時)

## 東京フィルの賛助会(応援団)に入りませんか？

2026年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立115年を迎えます。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは新しいシーズンも、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいります。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団



さまざまな形で青少年に演奏を届ける活動を続けています

### 賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

法人会員	年会費1口
賛助会員	50万円
後援会員	30万円
パートナー会員	
ワンハンドレッドクラブ	100万円
フィルハーモニー	50万円
シンフォニー	30万円
コンチェルト	10万円
ラプソディ	5万円
インテルメッツォ	3万円
プレリユード	1万円

※オフィシャル・サプライヤーの詳細はお問い合わせください。東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。

その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「ご支援カウンター」またはウェブサイト、東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

### 【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野<sup>かのまた</sup> 鹿丈)

Tel: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

## 活動のご報告

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。



### フランチャイズ・ホール、事業提携ならびに連携協定について

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携、愛知県刈谷市と連携協定を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。



### 文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。2022年度より東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け、2023年度は8校、2024年度は14校の小中学校を訪問しました。2025年度は東北・東海・関東地区の担当として6月から1月にかけて14校の小中学校を訪問しワークショップとオーケストラ公演を開催しております。



小学校体育館でのオーケストラ本公演



### 留学生の演奏会ご招待・・・留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に來場のJICA東京研修生の皆様とチヨン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文



## “とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

### ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。



お問合せ・お申込み  
東京フィルチケットサービス  
電話:03-5353-9522  
(10時～18時/土日祝休)

1月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

小倉 茂、星野 浩良、渡辺 徹郎(他匿名希望2名)(五十音順・敬称略)



## 特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業や記念イベントとして大切なお客様を招待したコンサートを開きたい
- 商品や新事業のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 式典や学会などでの演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】 東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

Tel: 03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

# 東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督  
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン  
Myung-Whun Chung

首席指揮者  
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ  
Andrea Battistoni

桂冠指揮者  
Conductor Laureate

尾高 忠明  
Tadaaki Otaka

大野 和士  
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー  
Dan Ettinger

特別客演指揮者  
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ  
Mikhail Pletnev

アシソエイト・コンダクター  
Associate Conductor

チョン・ミン  
Min Chung

永久名誉指揮者  
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄  
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者  
Permanent Member and  
Honorary Conductor

大賀 典雄  
Norio Ohga

コンサートマスター  
Concertmasters

近藤 薫  
Kaoru Kondo

三浦 章宏  
Akihiro Miura

依田 真宣  
Masanobu Yoda

アシスタント  
コンサートマスター  
Assistant concertmaster

坪井 夏美  
Natsumi Tsuboi

第1ヴァイオリン  
First Violins

小池 彩織☆  
Saori Koike

榊原 菜若☆  
Namo Sakakibara

平塚 佳子☆  
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之  
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里  
Eri Urata

景澤 恵子  
Keiko Kagesawa

加藤 光  
Hikaru Kato

坂口 正明  
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久  
Saku Suzuki

高田 あきの  
Akino Takada

田中 秀子  
Hideko Tanaka

栃本 三津子  
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀  
Miki Nakazawa

中丸 洋子  
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美  
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子  
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子  
Misako Fujise

第2ヴァイオリン  
Second Violins

藤村 政芳◎  
Masayoshi Fujimura

宮川 正雪◎  
Masayuki Miyakawa

高瀬 真由子☆  
Mayuko Takase

石原 千草  
Chigusa Ishihara

出原 麻智子  
Machiko Idehara

太田 慶  
Kei Ota

葛西 理恵  
Rie Kasai

佐藤 実江子  
Mieko Sato

本堂 祐香  
Yuuka Hondo

山代 裕子  
Yuko Yamashiro

吉田 智子  
Tomoko Yoshida

吉永 安希子  
Akiko Yoshinaga

若井 須和子  
Suwako Wakai

渡邊 みな子  
Minako Watanabe

ヴァイオラ  
Violas

小峰 航一◎  
Koichi Komine

須田 祥子◎  
Sachiko Suda

加藤 大輔◎  
Daisuke Kato

今川 結☆  
Yui Imagawa

杉浦 文☆  
Aya Sugiura

伊藤 千絵  
Chie Ito

岡保 文子  
Ayako Okayasu

曾和 万里子  
Mariko Sowa

高橋 映子  
Eiko Takahashi

中嶋 圭輔  
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子  
Tazuko Hirumi

古野 敦子  
Atsuko Furuno

村上 直子  
Naoko Murakami

森田 正治  
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	梶 彩乃 Ayano Kai
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	佐竹 正史◎ Masashi Satake	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	芳野 円香◎ Madoka Yoshino	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarian
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	岡村 彩香 Ayaka Okamura	小椋 陽咲 Hisaki Ogura	五箇 正明 Masaaki Goka	塚本 由香 Yuka Tsukamoto
高麗 正史☆ Masashi Korai	小栗 亮太 Ryota Oguri	杉本 真木 Maki Sugimoto	木村 俊介 Shunsuke Kimura	藤田 恵輔 Keisuke Fujita	柳瀬 茉耶 Maya Yanase
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	佐藤 俊輝 Toshiki Sato	山内 正博 Masahiro Yamauchi	
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara		田場 英子 Eiko Taba		ステージマネージャー Stage Managers
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	テューバ Tubas	
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	アレクサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		リー・リーリン◎ Li-Ling Lee	西川 優弥 Yuya Nishikawa	荻野 晋 Shin Ogino	大田 淳志 Atsushi Ota
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山内 研自 Kenji Yamanouchi		古谷 寛 Hiroshi Furuya
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	鳥潟 さくら Sakura Torigata		ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi		川田 修一◎ Shuichi Kawata	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
		ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	秋田 孝訓 Takanori Akita	
		河野 星◎ Akari Kono	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	木村 達志 Tatsushi Kimura	
		チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	杉山 真彦 Masahiko Sugiyama	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	箕輪 綾子 Ayako Minowa	中村 勇輝 Yuki Nakamura	
		井村 裕美 Hiromi Imura		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		船迫 優子 Yuko Funasako	
		森 純一 Junichi Mori		古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者  
Principal○副首席奏者  
Assistant Principal☆フオアシュピラー  
Vorspieler

## 東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホールなどでの定期演奏会や「午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、テレビ・ラジオ、インターネット等での放送・配信演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、これまでに4回のヨーロッパ・ツアー、創立100周年記念ワールド・ツアー、アジアでは2005年に日中韓3か国、2015年・2025年に東京とソウルの2都市で日韓国交正常化50周年・60周年記念コンサートなど多数開催。近年ではヨーロッパや中東からの招聘を受けるなど、国内外から高い評価と注目を集めている。2025年秋には名誉音楽監督チョン・ミョンフンとのヨーロッパ・ツアーを実施、各地で絶賛を博した。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を、愛知県刈谷市と連携協定を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

### Tokyo Philharmonic

In 2026, the Tokyo Philharmonic celebrates its 115th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, Tokyo Phil regularly performs both symphonies and operas. Tokyo Phil is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting the orchestra since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor, and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

Tokyo Phil has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand musical agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad. In the autumn of 2025, the orchestra embarked on a major European tour with its Honorary Music Director, Myung-Whun Chung. The tour was met with outstanding acclaim from audiences and critics alike across the continent, further cementing the orchestra's international reputation.

While Tokyo Phil is a frequent recipient of the ACA National Arts Festival Award in Japan, its recordings have been highly acclaimed internationally, winning the "OPUS KLASSIK 2021" award in the symphonic category (20th-21st century).

Tokyo Phil has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano, and Nagaoka City in Niigata, and also cooperation agreement with Kariya City in Aichi.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



東京フィルWEB

## 役員等・事務局・団友

## 役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	佐治 信忠
副理事長	大塚 雄二郎		鈴木 啓介
黒柳 徹子	小山田 隆		瀬谷 博道
専務理事	田沼 千秋		
石丸 恭一	玉木 林太郎		
	寺田 琢		
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	宮内 義彦		

## 事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務 経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	塚本 由香	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志	柳瀬 茉耶	沖汐 明日香	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		鹿又 紀乃	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			千木 加寿子	
	佐藤 若菜			二木 憲史	
	村尾 真希子			星野 友子	
	吉田 結衣			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

## 団友

安藤 栄作	岡部 純	今野 芳雄	高野 和彦	新田 伸雄	松田 朋子
池田 敏美	小樽 敦子	齊藤 匠	高平 純	二宮 純	水鳥 路
磯部 保彦	小山 智子	坂口 和子	高村 千代子	二宮 祐子	湊 貞男
糸井 正博	甲斐沢 俊昭	嵯峨 正雄	竹林 良	野仲 啓之助	宮原 真弓
今井 彰	加藤 明広	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	畑中 和子	山本 友宏
井料 和彦	加藤 博文	桜木 弘子	田中 千枝	玻名城 昌子	山屋 房子
岩崎 龍彦	金崎 真由美	笹 翠	田村 武雄	福村 忠雄	吉田 啓義
植木 佳奈	川人 洋二	佐々木 等	津田 好美	藤原 勲	米倉 浩喜
上野 眞行	木村 友博	佐野 恭一	戸坂 恭毅	古野 淳	脇屋 俊介
生方 正好	黒川 正三	清水 真佐子	長池 陽次郎	細川 克己	
大兼久 輝宴	黒沢 誠登	須藤 三千代	長岡 慎	細岡 寛	
大澤 昌生	河野 啓子	瀬尾 勝保	長倉 穰司	本田 詩子	
大和田 皓	近藤 勉	高岩 紀子	新田 清枝	松澤 久美子	

〈発行日〉2026(令和8)年2月18日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

プランチャイズホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉欧文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic \*無断転載を禁ず(非売品)

## ～コンサートをお楽しみいただくために～

### ♪ チケットの座席番号もチェック！

・本日のコンサートは全席指定です。チケットに記載されたお席にご着席ください。

### ♪ 開演時間もチェック！

- ・時間に余裕をもってご着席ください。演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間の入場も楽曲の進行により制限させていただきます。
- ・曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬようご配慮ください。

### ♪ 開演前に、お手元のお荷物や電子機器もチェック！

- ・演奏中の許可のない録音・録画は固くお断りいたします。
- ・演奏中に、時計やスマートフォン、その他電子機器のアラーム音やディスプレイの光が漏れないよう、電源をお切りいただくか、マナーモードの設定をいま一度ご確認ください。
- ・動いたときに音の出る衣類やバッグ等は足元に。
- ・のど飴類は開封時に音が出ないものをご準備ください。咳が出そうな日はあらかじめお手元やお口の中に。

### ♪ 演奏中に気を付けたいことも同時にご確認を！

- ・演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございます。

### ♪ カーテンコールにもマナーあり！？

- ・全てのプログラムの演奏後、指揮者と演奏者がお客様にステージの上でご挨拶いたします(カーテンコール)。カーテンコールでは、お客様からの拍手や声援が音楽家への最大の賛辞となります。スマートフォンや携帯電話での撮影やSNSへの投稿は、他のお客様の感動の妨げにならぬよう、またプライバシーに充分配慮してお楽しみください。なおスマートフォン以外での写真撮影や動画の撮影ならびに前半プログラム終了時での撮影はお断りいたします。

マナーを守ってコンサートをお楽しみください♪

**Tokyo Philharmonic**  
**Since 1911**

---

**Season 2026-27**

